

令和7年度 シラバス

教 科	商業	科 目	ソフトウェア活用	学 年	第 1 学年	学 科 類 型	情報ビジネス科
単位数	2 単位	教科書	ソフトウェア活用(実教出版)				
副教材	全商ビジネス文書検定模擬問題集 3 級・2 級						

学習目標	1 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。 2 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。
------	---

キャリア教育の視点	ビジネスを適切に展開して社会的責任を果たすという企業の視点を持ち、ビジネスの場面を想定しながら、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアなどの活用に取り組む学習活動を行います。それらの活動を通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する分野において、組織の一員としての役割を果たすことができるようにします。
-----------	--

		学習計画及び内容		考 査
1 学 期	4月	第1章 企業活動とソフトウェアの活用	現代社会における実例を取り上げ、それらのビジネスにおけるICT活用の基礎的な知識と技術を学習します。	期末考査
	5月	1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用		
	6月	2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化		
	7月			
2 学 期	8月	第2章 情報通信ネットワークの活用	ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理方法やセキュリティ管理の方法などについて学習します。	期末考査
	9月	1節 情報通信ネットワークの導入と運用		
	10月	2節 情報資産の保護		
	11月			
	12月			
3 学 期	1月	第3章 表計算ソフトの活用	表計算ソフトウェアを活用し、様々な場面で収集された情報の集計方法や分析方法を学び、ビジネスにおける活動に活用できる知識と技術について学習します。	学年末考査
	2月	1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析		
	3月	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ		
		3節 手続きの自動化		

学習の方法	学習についての概要を説明し、目標を十分に理解させ、学習に対する意識付けを行います。また、單元ごとの知識・理解を深め、学習の定着度を確認しながら授業を進めていきます。全国商業高等学校協会主催情報処理検定2級プログラミング部門の取得を目指します。
-------	--

評価の仕方	知識・技術は、定期考査の成績と平常点で評価します。平常点は、検定の取得状況、小テスト、授業態度、課題や提出物などを総合的に評価します。 思考・判断・表現は、習得した知識や技術を既存の知識や技術と関連付けたり、他の学習や生活の場面で活用したりすることができているか評価します。 主体的に学習に取り組む態度は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながらよりよく学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。
-------	--

備考	
----	--